

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2774001362
法人名	有限会社 豊中オアシス
事業所名	グループホーム 桜塚オアシス
訪問調査日	平成 19 年 8 月 29 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 18 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2774001362
法人名	有限会社 豊中オアシス
事業所名	グループホーム 桜塚オアシス
所在地	大阪府豊中市南桜塚4丁目11番4号 (電 話) 06-6844-7688

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センタ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	平成19年10月18日

【情報提供票より】(19年8月29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	14 人	常勤 6 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 7.6 人	

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り
	2 階建ての 1 階 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	他の経費(月額)	57,750 円
敷 金	有(299,250 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() ○ 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 1,050 円		

(4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	15 名	男性 3 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 81 歳	最低 64 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	すこやかクリニック 松本歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームの事業主体は有限会社豊中オアシスで平成14年1月1日に設立された。豊中市の中心部に立地しており周りは神社、史跡、公園が点在し、落ち着いたある閑静な住宅街に協同組合の系列の「グループホーム豊中オアシス」と隣り合わせに建っている。職員、利用者はお互いのホームを行き来して良い交流関係を維持しながら快適に暮している。建物は元社員寮を改造した2ユニットの木造二階建てで玄関、廊下、居室は広いスペースでゆったりとした造りの家庭的な雰囲気のあるホームである。職員は常に思いやりの心を忘れずに利用者優先の安らぐ介護に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は介護計画書に家族の同意欄を作り必ず同意を得た事を明確にする事であったが、家族の同意欄をつくり確認印も頂き改善されている。また、申し送り時の確実な伝達では確認印、サインなどがまだ確実に出来ていないので今後の課題とし改善されることが求められる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価、外部評価の意義と目的をよく理解している。今回の自己評価は職員の意見を聞きながら管理者が記入するようにした。今後は運営者、管理者、職員が一丸となって評価の改善課題について具体的な話し合いが持たれることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	8月27日に第一回目の会議が実施された。事業所の現状報告をしてホームへの理解を求めた。参加者から地域社会資源導入等のアドバイスや意見、要望などを聞く事が出来たので、今後は運営者、管理者、職員が会議に出席して改善点を共有し利用者が地域の一員として地元の活動や交流が出来るように取り組んで行きたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が訪ねて来られたときは介護計画書、金銭出納帳、行事の報告などの情報提供を積極的に行っている。来られない家族には出来るだけ電話をかけて利用者の日常の暮らしを話し、書類は郵送している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	これまで地域の行事には受身の姿勢で行事に参加していたが、今後は神社、公園などの掃除の参加や、ホームで作製した手作り作品などを地域のバザーなどで出店できるように積極的に取り組みたいと前向きに考えている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、楽しい、家庭的な環境」「安心、快適、尊厳のある生活」「利用者に応じた自立を支援」をホームの理念に掲げ利用者が落ち着いて安心して暮せるように職員は日々の業務の中で活かした支援をしている。	○	管理者、職員はグループホームのあり方を十分理解している。これからは地域で安心した暮らしを継続するための介護についての考え方が入ったホーム独自の明確な理念を作り上げる取り組みが求められます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の見やすい所に掲げて管理者と職員は日々の申し送りやミーティングなどの機会を見つけて話し合い、思いやりの心を忘れず都会のオアシスを目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の神社や公園で行われる行事などを近隣の方に声をかけて貰っている。また、職員が公園に張り出されている地域の催し等を調べに行ったりして行事へ参加している。今後はホームで作製した作品をバザーの時に出店したり、公園や神社の掃除への参加等も希望している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価、外部評価の意義と目的をよく理解している。今後は運営者を交えた評価の改善の話し合いを具体的に組み組んで行きたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月27日に第一回目の運営推進会議が行われた。事業所からは現状の報告がされた。出席者からは社会資源活用の提案や意見、要望があった。今後は2ヶ月一回の定期開催を考えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者には書類の提出や書類作成など、仕事上の相談にのって貰っている。市担当者との相談結果を利用者のサービスに活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に写真や介護計画書、金銭出納帳などを説明して家族のサインを貰っている。来られない家族には郵送している。家族会やホーム便りなどはつくられていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪ねて来た時に利用者の日常生活の状況や介護計画書等を説明して意見や要望を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置異動や離職に対しては利用者のダメージを最小にする為に不安を抱かないように声かけをしている。運営者と管理者は離職を最小限に抑えるための努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた職員体勢の中で職員は思いやりの心をもって支援しているが、日々の体験を介護知識の向上につなげて行く研修会の機会を確保出来ていない。	○	運営者は職員育成の重要性を認識して職員の習熟度の段階に応じた研修機会が得られるように運営面での工夫が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接の同系列グループホーム職員とよく連携や交流を図っている。行き詰まっている日常の仕事の悩みや緊急時の連携対応がスムーズに行われてよい関係を維持している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の都合でいきなり入居というケースが殆どである。本人が不安を抱かないように慣れるまで出来るだけ家族に來所してもらいながら、職員は本人が周りの雰囲気馴染めるように工夫している。職員は家族と共に安心と信頼関係作りに向けて取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ姿を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩として利用者に接している。日常生活の中で教えて頂くことが多いと感じている。利用者の安心と喜ぶ姿が職員の支援の励みとなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常会話を大事にしつつ、一人ひとりの思いや希望に関心を払い把握しようと努力している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者をよく知る家族や関係者とよく話し合っ利用者視点に立った介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は随時見直している。変化があれば必要に応じてその都度カンファレンスを行っている。個々のモニタリングの記録にも取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が急な入退院する時の対応等、家族が安心して暮らし続けられるように介護保険サービスと自主サービスを活かしながら前向きに支援していくように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望を大切にして馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関の受診が出来るように状況に応じた支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合でも食事が摂れる間は本人、家族の意向を確認しながらグループホームで支援していくホームの方針となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時にプライバシー確保について誓約書を入れている。利用者の誇りを傷つけない対応に十分配慮し、記録や個人情報の取り扱いには特に徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に利用者が合わせるのではなく、ゆっくりとした利用者のペースに合わせるように努力しているが人手が足りない時はつい急がしてしまう事がある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力を活かしながら職員と一緒に買い物、調理、食事づくり、後片付けを行っている。	○	食事中は利用者だけで食事している。その間、職員は見守りをしているが、職員も利用者の介助をしながら一緒に食事を味わう、楽しい家庭的な団欒が求められる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を決めているが夏季はシャワー入浴も取り入れられている。一人ひとりの習慣や好みをよく聞いて個別にあった入浴の支援をおこなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の出来ること好きなことを把握している。写真収集に興味のある方は雑誌や新聞の写真を切り抜きファイルを作ったり、テレビで相撲観戦に興じたり、将棋や、おやつ作り等を楽しんで暮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や近くの神社、公園へ週二回位出かけている。外出が困難な重度の利用者は外出の機会が少ない。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、安全に気をつけながら鍵を掛けずに支援する姿勢を徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は救命救助の講習に行ったり、月一回職員間で避難対策など話し合っ職員だけの誘導訓練をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事はカロリー計算がされている。食事摂取量や水分補給は利用者ごとに記録されて全職員で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	門から玄関までは階段とスロープになっていてゆったりとした雰囲気である。広々した玄関には植木が置かれ廊下には長椅子が所々に設置されて居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は思い出の写真や馴染みの家具やソファなどを持ち込まれて、その人らしく居心地のよい居室づくりに工夫されている。		